

# 各発達の時期における 「先生」のネガティブな言動について

高岡 昌子・高橋 千香子・林 悠子・岩本 健一

奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

## Negative Behavior of Teachers towards Children at Various Developmental Stages

Masako Takaoka・Chikako Takahashi・Yuuko Hayashi・Kenichi Iwamoto

*Naragakuen University Narabunka Women's College*

保育所や学校において「先生」と呼ばれる立場の者は、なるべく子どもの立場を理解して、不適切でネガティブな言動をしないように常に心掛けていかねばならない。そのために、保育者・教育者とそれらの養成課程の学生は、具体的に「先生」のどのような言動が特にネガティブな言動として子どもの心に残るのかについて知っておく必要がある。そこで保育所や学校における「先生」のネガティブな言動について調査研究を行った。その結果、幼児期においては、先生のネガティブな言動は少ないが、小学校高学年から中学生の時期においては、「先生」の言動でネガティブとして捉えられた言動が多くなっており、高校生になると減っていた。この変化は思春期と関係していると考えた。「先生」の言動でネガティブと捉えられる言動は、それらを受け止める子どもの発達の時期によって量的にも質的にも異なっていた。また高岡(2003)<sup>1)</sup>における結果と、今回の調査協力者の所属する大学が異なるため単純に比較検討できないが、全体的に「先生」からの体罰が明らかに減ってきているようであった。

キーワード：「先生」のネガティブな言動、保育者・教育者、教員、発達、思春期、変化

## 1. はじめに

保育所や学校において「先生」のネガティブな言動が子どもの心に及ぼす影響は大きい。本研究においてネガティブな言動とは、子どもの心にネガティブな言動だったと記憶に残る不適切な言動のことをいう。河野・平野(2010)<sup>2)</sup>は、「教師の不快な態度は、たとえ1度きりであっても、児童生徒の心に拭い去れない思いを残す結果になっている。」と述べている。したがって、「先生」という立場の者は、なるべく子どもの立場を理解して不適切な言動をしないように常に心掛けていかねばならないので、「先生」という立場に立とうとする者はどのようなことが不適切な言動として子どもの記憶に残るのかについて予め知っておく必要がある。このような情報は、保育者・教育者養成課程の学生指導に有効な資料

---

高岡昌子・高橋千香子・林 悠子・岩本健一 〒631-8523 奈良県奈良市中登美ヶ丘3-15-1 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

となる。同様に学生指導に活かすことのできる研究である豊田(1996)<sup>3)</sup>では、大学生に小学校・中学校・高等学校における好きだった教師と嫌いだった教師について自由回答させて、教員養成課程の学生指導に有効な資料を提供しているが、幼児期のことは想起させていない。そこで高岡(2003)<sup>1)</sup>では、幼児期も含めて各発達の時期における教師のネガティブな言動について調べた。その結果すべての発達の時期において、叱責や注意場面におけるネガティブな言動が多くあげられていたが、それぞれ内容の傾向は異なり、幼児期では生理的な不快を伴うような場面での叱責や注意場面におけるネガティブな言動がよくあげられ、小学生になると体罰(9.32%)がよくあげられ、中学生の時期においても体罰(5.93%)がよくあげられ、高校生になると過度でしつこい叱責がよくあげられていた。これらの結果から、特に小学校での「先生」からの体罰の多さに驚き、その後の変化を調査していく必要性を感じた。そこで、今回の調査によって教員の言動における時代的な変化も捉えていきたい。

## 2. 目的

本研究は、平均19.9歳の学部生を対象にして、各発達の時期の学校において「先生」と呼んできた保育者・教育者から受けた言動でネガティブな言動であったと記憶に残っている内容について調べることが目的とした。まず「先生」のネガティブな言動として想起される内容や量の発達の变化について調べる。そして今回、高岡(2003)<sup>1)</sup>における調査の調査協力者より約8年～約12年後に生まれた世代の調査協力者を対象にして、同様のネガティブな言動についてのデータを得ることで、教員の言動における量的そして質的变化も捉えていきたい。特に高岡(2003)<sup>1)</sup>で多く想起された「体罰」がネガティブな言動としてあげられる割合の変化も捉えたい。

## 3. 方法

### 3.1 調査協力者

1992年から1997年生まれの平均19.9歳の保育教育者養成校の学部生78人(女性58名, 男性20名)

### 3.2 調査材料

ネガティブな内容についての質問紙では、冒頭に「これから先生の言動で不快だったこと(つらかったこと・悲しかったこと・ショックだったこと・嫌だったことなど)について質問します。誰がどのようなことを書いていたということは一切公開しません。つまり個人について注目するのではなく、全体的にどの時期にどのような体験を持っているかを調べるのが目的です。従って安心して書いて下さい。」と記入しておいた。ポジティブな内容についての質問紙では、冒頭に「これから先生の言動で良かった記憶(嬉しかったこと・喜んだこと・感謝していること・ありがたかったことなど)について質問します。誰がどのようなことを書いていたということは一切公開しません。つまり個人について注目

するのではなく、全体的にどの時期にどのような体験を持っているかを調べるのが目的です。従って安心して書いて下さい。」と記入しておいた。また高岡(2003)<sup>1)</sup>では小学校の6年間をまとめて質問したが、今回は小学校1年～3年と小学校4年～6年に分けて質問した。

### 3.3 手続き

上記の説明書きに加えて、口頭では、無理をせずに書くことのできる範囲で書いてほしいことを伝え、忘れた場合には「忘れた」と書いておいてほしいことを伝えた。また成績には関係のないことも伝え、気軽に回答するように伝えた。配布の仕方によって、ネガティブな内容についての回答から始める調査協力者と、ポジティブな内容についての回答から始める調査協力者とを混在させてカウンターバランスをとるようにした。この調査は、授業の中で保育者や教育者として不適切な言動について考え、授業で皆で話し合うことを通して保育者・教育者になるための資質向上を目指すためのきっかけとして活かされた。

## 4. 主な結果と考察

### 4.1 各時期における「先生」のネガティブな言動

各時期で先生の不快な言動がどの程度あったのかについては表1に示す。また各時期で先生の良かった言動がどの程度あったのかについては表2に示す。

表1 先生の不快な言動

	保育所または幼稚園		小学校低学年		小学校高学年		中学校		高校		大学	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
たくさんあった	3	3.8	1	1.3	6	7.7	6	7.7	2	2.6	5	6.4
あった	3	3.8	5	6.4	9	11.5	7	9	4	5.1	3	3.8
少しあった	7	9	8	10.3	13	16.7	19	24.4	17	21.8	8	10.3
ほとんどなかった	16	20.5	18	23.1	12	15.4	16	20.5	19	24.4	26	33.3
全くなかった	29	37.2	31	39.7	28	35.9	22	28.2	35	44.9	35	44.9
その他	2	2.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
覚えていない	18	23.1	15	19.2	9	11.5	6	7.7	1	1.3	0	0
無回答	0	0	0	0	1	1.3	2	2.6	0	0	1	1.3

表2 先生の良かった言動

	保育所または幼稚園		小学校低学年		小学校高学年		中学校		高校		大学	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
たくさんあった	18	23.1	7	9	7	9	17	21.8	24	30.8	9	11.5
あった	17	21.8	22	28.2	23	29.5	21	26.9	20	25.6	25	32.1
少しあった	9	11.5	7	9	8	10.3	11	14.1	13	16.7	16	20.5
ほとんどなかった	3	3.8	5	6.4	8	10.3	12	15.4	7	9	8	10.3
全くなかった	4	5.1	10	12.8	12	15.4	11	14.1	11	14.1	13	16.7
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3.8
覚えていない	25	32.1	24	30.8	17	21.8	5	6.4	2	2.6	0	0
無回答	2	2.6	3	3.8	3	3.8	1	1.3	1	1.3	4	5.1

上記の表1の結果から各時期における「先生」のネガティブな言動が「たくさんあった」「少しあった」「あった」と回答するもの与其他「全くなかった」「ほとんどなかった」「覚えていない」などと回答するものに分けて、 $\chi^2$ 検定した結果、 $\chi^2=22.96$ 、 $p<.01$ で、保育所又は幼稚園の時には少なく、中学校の時には多いことがわかった。それぞれの割合を表3に示した。

表3 各時期における「先生」のネガティブな言動の有無

	あった	なかった・覚えていない・その他
保育所または幼稚園の時	16.6%	83.4%
小学校低学年の時	18%	82%
小学校高学年の時	35.9%	64.1%
中学校の時	41.1%	59%
高等学校の時	29.5%	70.6%

#### 4.2 各時期の「先生」からのネガティブな言動の内容について

各時期で「先生」のネガティブな言動として想起された具体的内容を示す。

##### 4.2.1 就学前までの先生の言動について

就学前までの先生の言動については覚えていないと答える者が多くおり、不快な言動について覚えていない者が23.1%、良かった言動について覚えていない者が32.1%もいた。就学前までの先生の不快な言動が「たくさんあった」「あった」と答える者は7.6%だけで、良かった言動が「たくさんあった」「あった」と答える者は44.9%もいた。ここで、具体的なネガティブな言動について表4に示す。

表4 就学前の先生からのネガティブな言動

叱責・注意場面

- 演奏会の練習の時に楽器の棒を上手く刺すことができず、何度も落とすと怒られて叩かれた。
- 先生が話をしている時に友達と喋っていたら、怒られていつも座っている椅子を取られて教室の外に出された。
- うちを漏らした時に0歳児の前でさらし者にされた。
- 怒られる時、いやだった。
- 失敗した時にみんなの前でずっと怒られたこと。「ダメでしょ」とか頭ごなしだった。
- 靴を踏んでいたら靴をゴミ箱に捨てること。
- 画用紙に手形を押す製作で、時間がなくて私だけ午後になった時に、先生を待っていたら「あんたがこないから悪い」と言われた。
- 「足切り落としたらか。」と言われた。
- 午睡の時間に友達が話しかけてきたのに、自分だけ外に出された。
- タイミングが悪かったせいもあると思うが、クラスの友人が叱られている時に熱が上がってきて、「先生しんどい」と言うと、「じゃ保健室に行ってくださいよ!」と手をぶんと振り回された記憶がある。

その他

- 「先生これ作った!」と言ったら「あーそう」と言われたこと。
- 話をきちんと聞いてくれなかった。
- 「どうせ嘘やろ」と言われた。
- 言語障害があるとされた。

4.2.2 小学校低学年の時期における先生の言動について

小学校低学年の時期における先生の言動についても覚えていないと答える者が多くおり、不快な言動について覚えていない者が19.2%、良かった言動について覚えていない者が30.8%もいた。小学校低学年の時期における先生の不快な言動が「たくさんあった」「あった」と答える者は7.7%だけで、良かった言動が「たくさんあった」「あった」と答える者は37.2%いた。ここで、具体的なネガティブな言動について表5に示す。

表5 小学校低学年の時の先生からのネガティブな言動

叱責・注意場面

- クラスのみんながいる中で立たされて説教されたこと。クラスの男子がみんなの前で説教されて平手打ちされた時は見ていて嫌だった。
- クラス全体ではなく、個人に怒る時に黒板を叩いたり机を蹴ったりする。
- 学校で特に禁止されていなかったレッグウォーマーを穿いていたら、「なんでそんな穿いてくるの」など呼び出されて色々言われました。
- 給食の時に納豆が食べられず「10粒だけ」と言われましたが、どうしても無理で放課後にみんなが帰りの用意をしている中でも「食べろ」と遠くから言われたことです。
- 給食を食べる時、「いただきます」をする前に先生が話をしている、きちんと聞いていたのに先生に「あなたいつもそうやって不機嫌そうな顔しないでくれる?」と言われたこと。
- 少し喋っているだけで、とても怖い顔で叩かれた。
- 怒る時に大きな音を出して吃驚させてきた。
- 答えは間違えていなかったのに、答えを書く場所に絵を描いていたら頭ごなしに怒られた。
- 友達が教室で飼っていたインコの羽を抜いた。私はそれを見ていた。先生が友達と私に怒り、同じことをしてやろうかと髪の毛を引っ張られた。
- 友達もみんなで給食の時間の前に少し騒いでいたのに、自分だけ呼び出された。

その他

- 2年の時にいじめられて相談したら「自分で何とかしなさい」、「あんたらの問題やろ」と言われた。
- 口が悪かった。
- 片方の耳が悪いことを恥づかしいと思っていた頃、席替えの時に教室で大声で言われたこと。クラス全員にばらされた。
- 理科のテストで間違った解答を書いてしまい返却の時に「こんな間違いをしている子がいたよ。あり得ない」と言われました。
- 字を濃く書いても汚いね、君は。
- 漢字テストの時前の子ができていなかったのを先生が見て、その子に小声で「大丈夫や、〇〇くん(自分)もできてないから」と言われた。
- 英語が得意な先生が、昼休みを潰して英語の勉強をして、できる子だけを褒めていた。
- 「珍しく100点じゃないね」

#### 4.2.3 小学校高学年の時期における先生の言動について

小学校高学年の時期における先生の不快な言動が「たくさんあった」「あった」と答える者は19.2%で、低学年の時の倍以上に増えている。また良かった言動が「たくさんあった」「あった」と答える者は38.5%おり、低学年と時と同様であった。ここで、具体的なネガティブな言動について表6に示す。

表6 小学校高学年の時の先生からのネガティブな言動

##### 叱責・注意場面

- ・クラスみんなに「○○（自分の名前）だけ給食を絶対に残させるな！」と先生が言った。
- ・テストの時、勉強をしたのに点数が悪かった。先生に聞きに行った時に「遊んでばかりいたらあかんで」と言われた。
- ・とにかく大声を出せば良的に頭ごなしに叱る。
- ・運動会の練習で厳しい言葉を言われた。
- ・家に電話するね。
- ・小4の時に先生に頭を叩かれたりした。
- ・成績や他のことで怒られた。
- ・声を荒げて怒る。
- ・昼にわざと落とした訳ではないのに「わざとやろ」と言われて落ちたパンを食べさせられた。
- ・低学年時と同じく、クラス全体ではなく、個人に怒る時に黒板を叩いたり机を蹴ったりする。
- ・頭ごなしに怒られた。
- ・「この前あれだけ言ったでしょ」と怒られたが、先生がそう言った日に学校を休んでいたので意味が全く分からないまま怒られ続けた。
- ・「調子に乗りすぎ」と注意された。
- ・6年の途中で担任が変わって、何も分かっていないのに怒られた。
- ・授業がまともに出来ない状態。教室で音楽が流れていたり、グラウンドから帰ってこない児童がいるなど、全く担任が注意をしなかった。

##### その他

- ・生徒全員に向かって「綺麗に掃除できたなら廊下を舐めなさい」。
- ・マラソンでこけて血が出たが、たいしたケガではなかったので走っていると、鬱陶しそうな顔で「保健室にはよ行きや」と言われ、修学旅行でエビフライのしっぽを残さず食べるまでは戻るなど言われたり、価値観を押し付けられた。
- ・先生が私と姉の名前（下の名前前で呼ばれていた）を間違えて「名前なんてどちらでもいいわ」と言われたこと。
- ・授業中に名字で当てていかれた時、前3文字のみを呼んでいて、「○○○」になって笑われたことが忘れられません。丁度、事情があって名字が変わったばかりだったので名字が嫌いになりました。
- ・上靴に悪戯されても、一時的に話をしてくれない。
- ・人によって対応が違いすぎた。大嫌いだった。
- ・人の血を拭けと言われた。
- ・担任が、担任自身の親を馬鹿にしたり、同僚の先生を馬鹿にした発言をしたこと。
- ・1番辛い時に、その気持ちには触れずに上辺ばかりの話をされたこと。
- ・5年の時に担任の先生が下の名前を読めなくて「こんな読めない名前を付けた親が悪い」と言われた。
- ・6年生の時に担任の先生が、生徒からいじめのようなものがありました。私は特に何もしていないのに「お前もか」と言われた。
- ・あまり話を聞いてくれなかった。
- ・クラスで問題があった時に「もう私、嫌や」と言っていたこと。

#### 4.2.4 中学校の時期における先生の言動について

中学校の時期における先生の不快な言動が「たくさんあった」「あった」と答える者は16.7%で、小学校低学年の時の倍以上、小学校高学年の時と同様に多い。また良かった言動が「たくさんあった」「あった」と答える者は48.7%おり、小学校高学年の時よりも増えている。ここで、具体的なネガティブな言動について表7に示す。

## 表7 中学校の時の先生からのネガティブな言動

### 叱責・注意場面

- ・「みんなも頑張ってるんやから」
- ・ちゃんと勉強してテストしたのに「勉強が足りないね」と言われた時に少し嫌な気持ちになりました。
- ・チョークを投げてきたこと。
- ・「戯け者。」
- ・嫌味。
- ・校則などを守っていない子を怒るけど、同じく守っていない子で怒られない場合があった。
- ・成績が下がると怒られた。
- ・体育の教師が陸上の顧問で、とにかく叩いて体罰ばかりなのが不快だった。
- ・怒ると物を投げてくる先生がいた。生徒の近くに投げってくる時もあった。
- ・馬鹿にするような言動。
- ・部活で私だけ怒られたり、八つ当たりされていた。
- ・部活で治療のため病院に行く時、そうやってサボるなら使わないと言われたことなど。
- ・部活の顧問の先生が、部活中にタバコを吸いながら指導をしていた。
- ・部活の指導で意味の分からない怒り方をされた。
- ・林間学校の時に、自分は寝ていたのに友達が騒いでいたので頭を叩かれて正座させられた。その上に自分だけとろとろしていたので余計に蹴られた。
- ・貶す。

### その他

- ・1人1人の生徒と向き合っていなかった。先生が好きではなかった。
- ・2年の時に担任と部活の顧問の仲が悪く、関係ないクラスの前でクラブの悪口を言われた。いじめられている時に「内弁慶のお前が悪い」と言われたこと。いじめられた時に「あなたはそれで良いの?」と一言言われ、嫌な顔をされて教室に戻られたこと。
- ・いじめられて部活に行けなかった時に、部活のメンバーと話し合いの時に、「いじめられるのが悪い、嫌なら部活に行くな」の様なことを言われた。
- ・いじめを見て見ぬフリをした。
- ・学校の伝統で、5分以内に体操服に着替えて体育館に集合する、というものがあり、5分を切らないと何度でもできるまでやらされました。その所為で怪我をした生徒もいました。
- ・高校受験の時、受けようとしていた学校を言うと担任の先生に少し笑われた。
- ・思春期だったこともあって嫌いな先生の一言一言が不快だった。
- ・社会の担当が3年間同じ先生だったのに、授業中「○○さんの後ろの人」と呼ばれる。
- ・授業を放置して職員室に戻った。
- ・「笑わないな。」と言われた。
- ・人によって話し方を変えられたことが不快でした。
- ・生徒の意見を無視して勝手に決めてしまう。
- ・担任が自分のことしか考えないタイプの人だったのでとても嫌いでした。
- ・先生はその気がなかったかも知れませんが、人によって最悪をしていた。
- ・中2の頃の部活の先生が最悪をしていた。
- ・部活の先生が3年の時に代わって、その先生が担任の1年生を最悪していて嫌だった。
- ・部活の大会で自分の出番の前に「期待してないから」と言われた。

## 4.2.5 高等学校の時期における先生の言動について

高等学校の時期における先生の不快な言動が「たくさんあった」「あった」と答える者は7.7%で、中学校の時の半分以下に減り、また良かった言動が「たくさんあった」「あった」と答える者は56.4%おり、中学校の時よりも増えている。ここで、具体的なネガティブな言動について表8に示す。

表8 高等学校の時の先生からのネガティブな言動

### 叱責・注意場面

- ・クラブの顧問が私の入っているパートのことをしっかり分かっていないのに頭ごなしに怒ってきたり、相談事に対して深く関わってくれなかった。
- ・私たちのことを分かっていないのに一般的・社会的に見て怒る先生。
- ・先生の思い違いや勘違いで怒られたこと。
- ・理科の先生で体罰をする先生がいた。
- ・私相手に言ったことではないが、公立高校で学校の方針に従わない、教科担任の意見に従わないのなら「やめろ」と何度も言って、クラスメイトが数名やめた。

### その他

- ・「○○はもっとこうしてたよ」と比べられることが嫌でした。
- ・「お前はこうだ!」と決めつけてくる先生がいて不快だった。

- ・「俺は知らん、自分でやれ」と放任された時。
- ・「下手くそやなあ」
- ・「何度も転校しているのなら、もう転校には慣れてるんじゃないの？慣れた？」
- ・「優等生だからって何でもして良いわけじゃない」と「君、苦手やわ」
- ・いろんなことを期待されすぎる。
- ・お前はもう高3にならずに〇〇高やめて〇〇高か〇〇高に変わったら？
- ・もっと考えて関わってほしかったです。
- ・下の名前で呼ばれたこと。その先生からは一部の女子と私だけが下の名前で呼ばれており、あからさまな最頂のようで気持ち悪かったです。
- ・何でも決めつけて、生徒の気持ちは考えられていなかったと思う。
- ・家の人と上手くいっていない時に家庭訪問がありました。私は親のことを本当に嫌だと思っている時だったので、訪問の最後の方で「何やかんや言うてもお母さん大好きやろ」と言われ、「あ、この先生何も分かってくれない人だ」と思いました。今でも忘れられません。
- ・個人名ではなく、「〇〇〇部」、「〇〇〇部」といつも言われること。
- ・女子〇〇部は馬鹿でも良いね。
- ・頭悪いね。
- ・部活の顧問に「死んだ魚の目をしてる」や「去ね」など言われた。
- ・部活の時、先生とトラブルになり、何かを言われたのですが覚えていません。
- ・部活の先生の、良いように良いように話を変えられた。
- ・文化祭のクラスの出し物を全部丸投げされて大失敗に終わった。
- ・勉強で、なんでできないのか問い詰められた。
- ・貶す。

#### 4.2.6 大学の先生の言動について

大学においては、在学中のデータであるために、それまでの時期と単純に比較することは難しいが、参考までに質問したところ、大学の先生の不快な言動が「たくさんあった」「あった」と答える者は10.2%で、また良かった言動が「たくさんあった」「あった」と答える者は43.6%いる。ここで、具体的なネガティブな言動について表9に示す。大学生においては、教員の授業における言動をあげることが多く、授業の仕方に不満をもつことが多いことがわかる。

表9 大学の先生からのネガティブな言動

##### 叱責・注意場面

- ・「ええかげんだまり」と言われた。
- ・〇〇に時間に、どうどうと携帯をいじっている人、寝ている人などは注意をせずに、窓を少し見ただけで名指しで注意された。
- ・「もっと頑張らなあかん」、「しっかりしなさい」
- ・嫌味。

##### その他

- ・「お前は仕事できないな」、「気が利かない女」
- ・「子どもを上から見てる」、「何も見ていない」と言われた。
- ・「寝息がうるさい」、「携帯を触るな」と言っていたのは良いのだが、その先生が授業中に携帯を鳴らしていた。
- ・ある授業が休講になった理由が先生自身の事情のためであったのに、その授業の時に先生が「△日補講します。」といい、他の人が「補講するんですか？」と聞くと「当たり前じゃないですか！何言ってますか！！」と叫んだ。先生の為に休講になったのに、なぜそんな言い方が分からない。
- ・学校の悪いところを私たちに言う。授業の仕方。
- ・学生の前で他の先生の悪口を言う。愚痴を言う。
- ・教科によって教え方があまり良くない先生がいるのでしっかり教えて欲しい。
- ・欠席の生徒のことを、本人がいらないのに悪口を言う先生がいた。
- ・児童の時の育て方について、母乳で育てられた・育てられていない、という発言。
- ・授業で分からないところがあるのに、早く進むのが嫌だった。
- ・誰も分かっていないのに授業を進める。人の話を聞かない。
- ・〇〇（道具）で遊んでた。
- ・友達のことについて非難された。



### 4.3 先生の言動で最も不快だった言動と最も良かった言動があった時期

各時期毎に「先生」のネガティブな言動について回答した後で、その中でも最もネガティブな言動があった時期を回答させた結果を図1に示す。また先生の言動で最も良かった言動があったとして回答された時期を図2に示す。

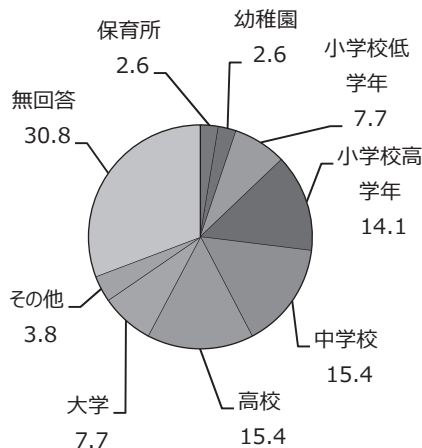


図1 先生の言動で最も不快だった言動があった時期

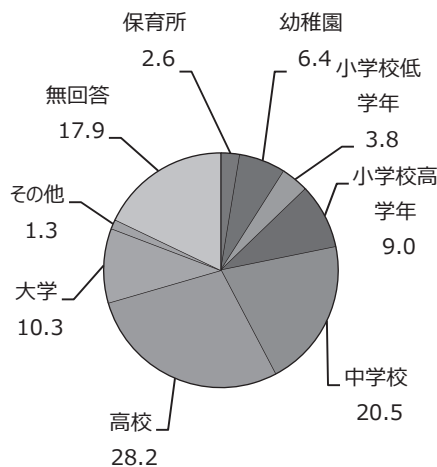


図2 先生の言動で最も良かった言動があった時期

先生の最もネガティブな言動としてあげられる時期を示す図1をみると、小学校高学年で先生のネガティブな言動が増えている。この変化は、小学校低学年と高学年で区分して調査しなかった高岡(2003)<sup>1)</sup>では、わからなかったことである。この変化は小学校高学年で思春期に入るためと考えられよう。そして多くの子どもが思春期となる中学校では先生のネガティブな言動が一層増えていた。高等学校においてはネガティブな内容も多く記憶に残っているようであるが、良かったと思えるポジティブな言動の想起も一層増えていた。これらの結果から、子どもたちはいろいろな先生と出会いながら、多感な思春期を傷つきながらも乗り越えて、先生方からの多くのポジティブな言動で日々支えられてきたことがうかがえよう。

## 5. おわりに

高岡(2003)<sup>1)</sup>における調査の調査協力者より約8年～約12年後に生まれた世代の調査協力者を対象にして、同様の教員のネガティブな言動についてのデータをすることで、調査協力者が異なるので単純に比較はできないが、前回多く報告された体罰（小学校で最多で9.3%）が今回は明らかに少なくなっていた（小学校で最多で0.4%）。時代が変わり、教員に子どもに体罰をしてはいけないという認識が高まったためであろう。しかし、体罰ゼロにはなっておらず、就学前で1件、小学校で3件、中学で2件、高校で1件の体罰があげられていた。今後も体罰ゼロになることを目指した指導を保育者・教育者養成校で続けて行っていきたい。

また高岡(2003)<sup>1)</sup>では高等学校の時の「先生」のネガティブな言動が最も多く想起されたが、今回の調査では全体的に少なくなってきており、ネガティブな言動を上回るポジティブな言動が多く想起された。ポジティブな内容においては、どの時期においても「褒めてもらった」「認めてもらった」という内容が多かった。また「見ていてくれた」「話を聞いてくれた」「向き合ってくれた」等という内容もあげられていた。これらに対して、「先生」のネガティブな内容においては、表4から表9までに示すように叱責や注意に関わる内容が多く、差別や臆惧に関わる内容もあげられていた。教員は日ごろから子どもたちの良いところを積極的に認めて、子どもたちと良好な人間関係を育み、やむを得ず何か注意をしなければいけない時には怒ったり叱ったりせずに、傷つきやすい子どもの心に細心の注意を払い、その前後のホローを忘れてはならない。教員は、保育園児や幼稚園児・小学生・中学生・高校生・大学生がそれぞれの状況下で何を重要視して今を生きているのか、そして各々の時期で教員にどのような援助や指導などを求めているのかを察し、子どもたち各々の発達を柔軟に捉えていけるように一層心掛けていかねばならないだろう。

## 6. 謝辞

本研究の調査にご協力いただいた調査協力者の方々に心から御礼申し上げます。保育者・教育者養成課程における学生指導に役立てるだけでなく、自らの姿勢にも一層活かしていく所存でございます。

### 引用文献

- 1) 高岡昌子 (2003) 短期大学生が再生した各発達の時期における教師のネガティブな言動について. 奈良佐保短期大学研究紀要, 10: 49-54.
- 2) 河野司・平野香織 (2010) 教師の不快な態度に関する調査研究—教職専攻の女子短大生が考える教師像—. 九州女子大学紀要, 47, 2: 93-109.
- 3) 豊田弘司 (1996) 回想された好きな教師と嫌いな教師像. 奈良教育大学教育学研究所紀要, 32, 別冊: 125-131.